



Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) COC 認証取得

株式会社 中村製材所

《報道資料》

株式会社 中村製材所



**(株)中村製材所オリジナル次世代突板
SKINWOOD®がお仏壇に！
商品名 “ 然 ”**

オプションに抗ウイルス・抗菌の加工も可能とした。

この度、株式会社はせがわ(東京本社:東京都文京区後楽 1-5-3 後楽国際ビルディング 7 階 代表取締役社長 新貝 三四郎)と株式会社中村製材所(福岡本社:福岡県大川市大字向島 2155 番地1 佐賀本社:佐賀県佐賀市諸富町為重 385-1 代表取締役 中村展章)は、中村製材所オリジナル特許商品 SKINWOOD®(FSC®認証材仕様)を採用したお仏壇開発を実施しました。施工スペックの中に抗ウイルス・抗菌加工もオプションとしてパッケージ可能となっており、**日本の伝統工芸品(お仏壇)に高付加価値を付け技術的導入**したことを発表いたします。このお仏壇(こだわりのハンドメイド)が今後脱炭素社会への課題解決となること、サステナブルな取組はもとより、安心・安全な暮らしを実現することを御約束します。これは、SDGs(「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」)の精神に則り、相互繁栄の理念に基づき、かつ、環境や持続可能な社会の発展に貢献することを目標に、信義誠実の原則に従って、連携締結に至ったものです。

※ 商品名 “然”: 自然の“然”を題材にした自然との共生、自然を守る。



お仏壇の
はせがわ



Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) COC 認証取得

株式会社 中村製材所

～SKINWOOD®とは～

◆次世代へ繋ぐ、資源に負荷をかけない「SKINWOOD®」



SKINWOOD®

森林に寄り添いながら美しい空間を創る。

若い森林から生まれた 次世代突板

SKINWOOD®

40

株式会社 中村製材所



100 年先、時代を超えて未来に繋いでいくこと、地球の大事な資源に負荷をかけないことが SKINWOOD®の役割であり、株式会社中村製材所の社会的ミッションなのです。コンセプトは、【次世代へ繋ぐ、資源に負荷をかけない「SKINWOOD®」】これをお仏壇に仕立て採用し、サステナブルな技術追求を実施しました。

昨今、2050 年カーボンニュートラルの実現や 2030 年 SDGs(持続可能な開発目標)の達成には欠かせない森林保全がうたわれております。そのサイクルを持続的に進めるには、森林で伐採した木材を都市・町村部において積極的、さらには有効的利活用していくことが要求されます。管理された森林認証があり付加価値のついた木材料を使用すること、さらには SKINWOOD®仕様により環境課題を解決することとなります。

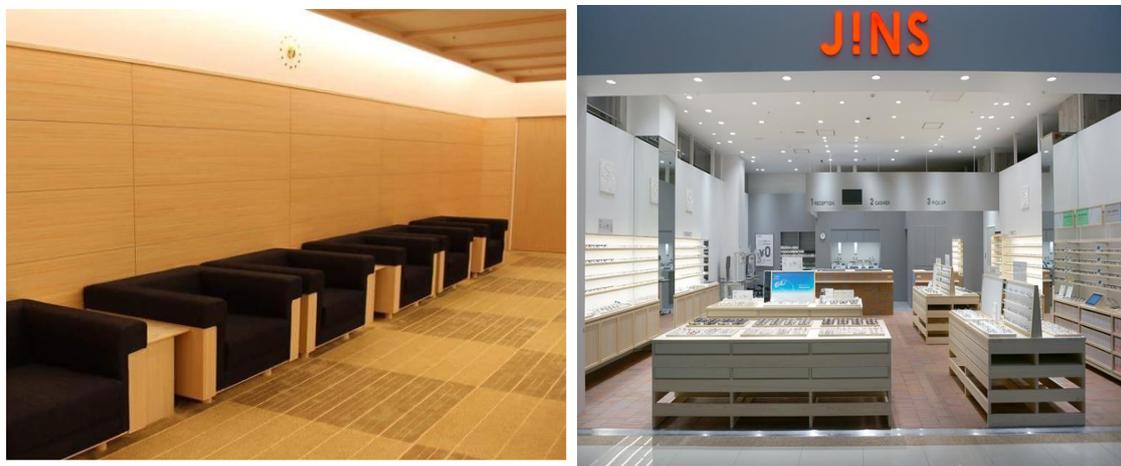
人類の大切な地球環境と寄り添いながら、ご先祖様へのご供養におけるご家族・ご親類様を支援することで社会貢献したいという中村製材所の願いが込められています。これまでの木材活用の在り方に限界を感じていました。保護価値の高い森林資源が、日々世界中で失われているからなのです。一方で国内は豊富な森林資源が多くあります。世界では森林保護に舵を切り、日本国内ではまさに森林の有効活用が求められているのです。(法改正:後述)

そこで※FSC®認証材や国産の地域材の比較的樹齢の若い小径木に着目し、それを有効的に活用した製品“次世代突板『SKINWOOD®』”を開発しました。(特許取得、更にワンスペック付加価値(不燃国土交通省大臣認定・抗ウイルス・抗菌加工))

特許取得により業界最先端の技術とその存在価値を高めることができました。この開発の根源は、森林資源の保全や環境を守り、地域の誇りを取り戻すこと、コロナ禍での安全・安心な暮らしをサポートすること、地域経済の活性化(地方創生ブランディング化)等をターゲットとした取組でもあります。これからも中村製材所は、業界最先端となる「先進的戦略」分野での技術開発を目指し、明確な方向性をもって、現場職人の技術と声を反映させていきます。

※ Forest Stewardship Council®(森林管理協議会)は、責任ある森林管理を世界に広めることを目的とする国際的な非営利団体です。

弊社ライセンスコード「FSC® C022549」



※採用例 (左)佐賀県庁知事来賓室 (右)アイブランド JINS 佐賀ゆめタウン店舗内

■ 森林資源と私たち業界の課題

自然の生態系を含む天然林の消失は、今も世界の多くの地域で問題となっています。その原因の一つは、木材・紙等の原料や燃料として使用するための森林資源が、違法に伐採され適切に管理されていないことにあります。私たちの生活や社会・環境を維持するためには、人間の手でコントロールできる数少ない資源の一つである森林を適切に管理運営していかなければなりません。

建築・内装材である突板¹の業界では、世界各国・国内から選りすぐられた比較的径級(直径)が大きい丸太²が使用されてきました。

※突板1:天然林を薄くスライスしたもので、例えば天井、内壁、床材(フローリング)家具、ドアなどの表面に貼られているもの。

※丸太2:「植林→保育→伐採」が行われている手入れの行き届いた森林から伐採された丸太以外のもの

■ SKINWOOD® 採用にあたり (加工工程等紹介)

SKINWOOD®は、大径丸太そのものからではなく、若い樹齢の小径木から突き板へ特殊加工されたものです。すなわち、国産の直径が小さな桧や杉の丸太(小径木)を板にして、ブロック状に加工したモノを接着集合(集成材)させ、そのブロックの表面を削って、突板に加工した製品です。**内装壁材として公共建築部等、広範囲・大量・リフォーム品としても可能な製品でもあり、家具材としての機能を有する高付加価値のある製品です。**

■ SKINWOOD®の特徴について

- ①森林資源の有効利用を可能にした小径木が採用できる新工法。(含む間伐材)
- ②小径木でありながら、小さなブロック(5~15mm厚)で構成されているため、柾目に色調のバラツキが抑えられ美しい木目を広範囲に表現することが可能。
- ③FSC®認証材のみならず、地産地消の推進として各地域産材の利用が可能。
- ④適切に管理された森林からの産出された木材の使用することが、世界的に取組強化されている。すなわち SDG'S の目標 15 に合致している。
- ⑤抗ウイルス・抗菌加工仕上げによる安全・安心な暮らしの実現



1. 日本国土の森林面積は増減無し

日本の森林伐採の現状から見ていくと、戦後の人口増加や産業発展、少子高齢化など森林の増減が考えられる変化はいくつもあります。林野庁によると、日本の森林面積は1966年から2017年の約50年で、ほぼ同じ数値をキープしています。

森林面積の内訳を人工林と天然林で見ると、人工林の面積は793万haから1020万haと約2割増加しており、天然林の面積は約1割強減少しています。

森林面積がほぼ変わらないのは、天然林の減少を人工林が補っているからだといえ

ます。

2. 森林蓄積は年々増加

森林蓄積とは、森林資源量の目安のことですが、国内森林面積は長年横ばいでした。この森林蓄積は年々増え続けています。つまり、木材として活用できる木が増加していることを示しています。

実際、1966年から2017年までの約50年間でみると、森林蓄積は約3倍に増加しています。また、人工林が占める森林蓄積の割合も3割程度から6割程度に増えています。天然林の伐採と並行して、植樹を行い森林保全に努めてきた成果といえるでしょう。このように、日本には森林資源が充実しています。一方で森林面積が変わらず森林蓄積だけが増加しているということは、森林伐採の量が減少していることを意味します。これは、海外の安価な木材の輸入増などを背景に、国内の森林伐採が減少し、活用できる森林資源を活用できていないということです。

森林資源として利用できる木々を伐採せずに放置してしまうと、資源として使えない木々が残り、将来的には森林資源が減少してしまうと考えられています。

また、計画的に森林伐採が行われないと、様々な環境問題のトリガーにもなります。

3. 森林伐採の減少による環境問題

日本では、海外産木材の輸入増加により国内林業が衰退し、森林伐採を含む森林の手入れがまだまだ進んでいません。森林伐採の減少から生じる環境問題については次のとおりとなるのです。

【①地球温暖化防止機能の低下】

森林は二酸化炭素を吸収し、酸素を排出する役割を果たしています。

一見、伐採しない方が地球温暖化の抑制につながりそうですが、樹齢の長い木が残り続ける伐採不足は、温暖化を加速させる恐れがあります。若い樹木が生長している間は、光合成による二酸化炭素吸収量が呼吸の放出量を上回ります。

しかしながら、樹々が成熟すると二酸化炭素の吸収量が減り、排出する二酸化炭素量のほうが多くなります。つまり、資源として活用できる大きさに成長した木を伐採せずそのままにしてしまうと、新たな植樹もできず地球温暖化防止機能は低下していくといえます。小径木の若い木々を植林～伐採までしっかり管理していくことが環境問題の解決とつながるのです。その小径木利用がSKINWOOD®なのです。

また、樹木は二酸化炭素を吸収し、炭素として維持し続けますが、山火事で燃える、害虫に食べられて腐敗した場合、炭素は二酸化炭素に戻り、大気中に再び排出されます。適度な伐採を実施することで、森林の環境が保たれ、こうした地球温暖化リスクを防ぐことも期待できます。

【②土砂災害の増加】

伐採など森林の手入れが行われないと、土砂災害が増える可能性も高くなります。

手入れがされている森林は木々の間隔が空いているため、日光が地面まで降り注ぎ

下草が成長できる環境が整っています。

しかし、手入れが行き届かなくなると、樹木の葉が生い茂り地表は暗くなり、草が生えず土壌がむき出しになります。この状態で大雨が降ると、保水力が弱いむき出しの土壌は雨を吸収しきれず、雨水は地表を流れ山の土砂が滑り落ちるリスクが高まるのです。また、雨は一度、葉の密度が高い樹々の上部に留まることになります。雨粒は、重みに耐えられなくなったところで下に落ちますが、通常の雨粒より大きな衝撃を地表に与えます。これも、土砂災害のリスクを高めている要因の一つです。

4. 日本国は積極的な木材の活用を

森林伐採の減少による環境問題を解決するには、豊富な森林資源を国内の施設・住宅や製紙業などの市場に供給していくことが大切だと考えられています。

日本は 1950 年代まで木材自給率が 9 割以上であり、木材供給の 100%近くが国産材でしたが、1964 年の木材輸入自由化以降は輸入丸太、1970 年代からは輸入製品や輸入燃料材が国産材を圧迫し、2002 年には木材自給率が過去最低の 18.8%程度まで落ち込みました。2002 年以降、木材自給率は回復基調にあり、2017 年には 36.1%程度まで増加しています。まだまだ輸入製品・輸入燃料材が木材供給量の過半数を占めている状況は変わっていません。この状況を変える方法として、次の2ステップを課題解決として推奨しています。そのソリューションが SKINWOOD®なのです。

第1ステップは、生長を終えた樹木を間伐し、若い樹木への生長を促します。

第2ステップは、間伐した樹木を SKINWOOD®仕様の商品へと積極的にソリューション活用する。すなわち木材の過剰消費を抑えるということと理解しています。この度の開発オプション(不燃・抗ウイルス・抗菌)も加えることで安全・安心な暮らしを約束致します。その第2ステップこそが、お仏壇のはせがわ様から要求された技術提供と会社連携に繋がったと理解しています。

5. 最後に

世界では森林伐採が深刻な問題となっており、植林などにより回復に努めなければならぬ状態です。一方で日本は状況が異なるということがポイントです。データによると日本では長年森林面積は変わっておらず、それよりむしろ森林環境の整備のために森林伐採が必要とされています。豊富森林資源はあるものの、木材供給は安価な輸入に傾いており、増えすぎた国内森林蓄積は土砂崩れなどの環境問題を引き起こしています。必然的に国内森林の適度な間伐と、国内産業への有効活用が求められているのです。今後、木材利用促進に繋がる法律化も進むことと考えられます。

【SDGs は自分ごと】

無意識に選んだ商品が環境に配慮した持続可能商品(SKINWOOD®)だった。このことをきっかけに SDGs を知ることで、次に物を選ぶときの購入視点が変わるかもしれません。そうなることで、自分たちが生きる未来のことを考えるきっかけ(気づき)

になる可能性もあります。

【エシカル消費(人や社会、環境に配慮した消費行動)の実現】

エシカルブランドに拘る企業のPRとして発信。国内ではエシカルへの理解度はまだまだ浸透していないような気がします。実際、“日本エシカル消費推進協議会”が設立されたのは2014年。消費者庁にエシカル消費の研究会である「倫理的消費調査委員会」が設置されたのは2015年です。ほんの6~7年前のことです。現在、地球上のいたるところに課題が存在し、生物多様性の損失、途上国における労働搾取や児童労働、気候変動、資源不足、食糧危機、貧困といったように広範で枚挙にいとまがありません。いずれも深刻な問題であるために世界規模での対策が急務となっている状況です。これがまとめられたものがSDGsです。そして、こうした課題を解決していくために「エシカル」に注目が集まっているのだと思います。地球が抱えている課題を解決に導く一端を、私たち一人一人が担うための有効な手段が「エシカル」だからです。このように日本では歴史が浅い、環境に優しい商品を積極的に購入しようという意識が、SDGs ネイティブ世代に自然と生まれていくことを心から願っています。



SDGs ネイティブとなって欲しい次世代やそれよりもっと若い世代を育てていくためには、無理に教えることよりも、選んだものが環境に優しいものであった。そこからスタートしていくことが大切ではないでしょうか。それらはプレイヤーである企業の仕事でもあり、我々大人たちの仕事なのです。ここにSKINWOOD®の存在価値があると思います。今回のリリースについては、SDGsへの取組に本腰を入れるタイミングは今しかないと感じ、これからの安全・安心たる生活をするをサポートし、時代の“オイテケボリ”的存在にならぬよう事業展開を実施しております。経済産業省九州経済産業局における九州SDGs経営推進フォーラムの「パートナー企業」にも選定されました。これは社会課題の解決に向けたソリューションやスキルを有する企業を「パートナー企業」として、当該フォーラムや会員とのパートナーシップのもと、SDGs経営を推進しているのです。

一方、SDGsに繋がる脱炭素社会に向け木造化・木質化の法律名も改称されました。「脱炭素社会の実現に資するための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」です。弊社開発研究していますSKINWOOD®を建築耐火部材としも今後さらに

異業種へ SKINWOOD®の採用を加速させていきます。FSC®認証森林の材料のみではなく、重要な資源の一つの地域産材においても「植林→保育→伐採」が行われている森林から管理供給された木材を使用しています。FSC® COC 認証管理をなす事業取組は、持続可能性と生物多様性を促進する木材製品を提供し、今年で 17 年目になりました。森林資源の有効的利活用や保全、環境を守り、地域の誇りを取り戻し、地域経済の活性化(地方創生)を支援していきます。

これらの取り組みにより、弊社の業態を従来の製材所から課題解決型木質サプライヤー確立への更なるステップアップとし、世界の潮流でもあるSDGs取組に邁進し、課題を解決していきます。今回はお仏壇(はせがわ様)への技術開発革新となります。

社会課題解決型商品 “然” の完成

～ FSC®認証材100%国産純ヒノキ使用 ～



SDGsの普及・啓発やSDGs経営により、消費者サポートを行う企業で、SDGsのゴール達成や地域・社会課題の解決に向けたソリューション、それが “然” である。ハンドメイドにより**唯一無二**



【本件に関する問い合わせ】

株式会社 中村製材所 担当:古賀

電話:0952-47-3100 FAX:0952-47-3742

E-mail: s.koga@kanejin.jp